



地域ブランディングによって経済V字回復した熱海市



兎塚地区のはなれサルに注意せよ

議会初日の所信表明で「これまでの政策を活かし、新たな一歩を刻む」ことを目標とし、各施策に取り組むとあった。



その中で「シティプロモーションの推進」施策としては、観光施設の整備を進めるとあるが、そもそも行政によるシティプロモーションをどう捉えているのか。

町長 本町におけるシティプロモーションは、単に観光やイベントをPRする広報活動にと

どまらず、地域の価値を磨き上げ内外へ伝えることで交流人口関係人口の拡大、移住定住の促進、地域経済の活性化、そして町民の誇りや郷土愛の醸成に繋げていくため庁内横断で施策を連動させながら民間事業者・関係団体・町民のみなさまと協働の輪を広げていきま

す。
町民のみなさんが町の良さを再確認し、誇りを持つ状態をつくること
が、結果として移住促進や人材確保に繋がると考えています。

行政によるシティプロモーションとは
地域の価値を磨き上げ内外へ伝えることです



村岡区においてサルの出没エリア拡大と個体数増加の懸念がある。SNS等の情報からも近年は、はなれサルの目撃



数や頭数が増えている実感がある。対策としては、従来の被害防止策を継続する中で、住民協力や自衛意識も重要と考える。一方で、現行の追い払い中心の対策では根本的解決にならない。小代・村岡を含め監視員2名（実働1名）による対応体制の限界も課題として挙げ

られる。放置柿など餌資源の存在が出没の要因とされるが、その対策効果の検証は十分でない。短期集中的に人金をつぎ込んで徹底的な取り組みが必要である。

町長 村岡区については、「美方B群」1群約12頭で構成され、大きな個体数の変動はないとの

認識です。一方で、行動範囲は村岡区内で広がり、出没頻度も増加傾向にあると把握しています。対策は、電気柵や小代用心棒の設置、追い払い活動を継続し、補助金による支援も実施しています。現在の監視員2名体制については、2名で問題ありません。

サルが増えているのか
個体数の変動はない

